

## 第三次中長期基本計画 目標一覧

## 事業目標 1 琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介（研究部）

## 重点事業 1-1. 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進

## ・10年後の目標

複合分野における研究プロジェクトが内外から企画されている。（古代湖研究で琵琶湖が研究対象または比較対象とされている）

## ・5年間の事業の考え方

既存の研究プロジェクトのとりまとめと新しい複合分野の研究プロジェクトの立ち上げを進める。

## 重点事業 1-2. 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える

## ・10年後の目標

琵琶湖の新たな魅力に気づき、知りたい人が増える。

## ・5年間の事業の考え方

ウェブを中心とした新たな研究発信方法の構築とコンテンツの充実をはかる。

## 重点事業 1-3. 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

## ・10年後の目標

必要な設備が整った研究機関と認識される。内外の研究者による設備を利用した研究成果が公表される。

## ・5年間の事業の考え方

耐用年数を超えたり故障した研究備品を更新し、共同利用を推進する。

## 事業目標 2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備（資料活用係）

## 重点事業 2-1 標本・資料の管理体制の強化

## ・10年後の目標

安全な収蔵庫環境が確立されている。

## ・5年間の事業の考え方

開館から25年が経過し収蔵庫の保管環境や作業環境が悪化しているため、計画的に改善を図るとともに、IPMによる管理体制を強化する。

## 重点事業 2-2 標本・資料の整理の推進と公開による利用促進

## ・10年後の目標

データベースの充実が図られ、館内外の利用者のレフェレンス機能が強化されている。

## ・5年間の事業の考え方

従来より進めてきた収蔵品データベースへのデータ入力を引き続き行うとともに、画像データが付加されたより魅力的なデータベースとなる。

### 重点事業2－3 ICTを利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出

#### ・10年後の目標

資料の情報がどこからでも楽しめる。

#### ・5年間の事業の考え方

リニューアル後の常設展示資料情報に対応したウェブ図鑑の公開を進める。

### 事業目標3 みんなで学びあう博物館へ（交流係）

#### 重点事業3－1 幅広いニーズに応える交流事業の充実

#### ・10年後の目標

多様な主体と博物館と一緒に充実した交流事業を作り出すことができ、それを通じて「人びと・びわ博」の複合文化的共同体（「文化的コミュニティ」）として定着される。

#### ・5年間の事業の考え方

利用者との対話を通じて交流事業のニーズを確認しながらメニューの充実を図る。また、交流事業の実施者の多様化を促進する。

#### 重点事業3－2 出会いの場の創出

#### ・10年後の目標

博物館を利用する人々が出会いや学びあいを契機に新たな研究や事業を生み出す風土が形成されている

#### ・5年間の事業の考え方

フィールドレポーター制度やはしかけ制度およびそれらの出会い・発表の場であるびわ博フェスを基盤に、参加する層を拡充し多様性を高めることで目標を実現する。最初の5年間は団体・企業当の参入を促すため団体向けのはしかけ制度的なものを作る。

#### 重点事業3－3 「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援

#### ・10年後の目標

体験的な教材を主体的に生み出せる教員が増加している

#### ・5年間の事業の考え方

「深く学ぶ力」による学習では体験が重視されるが、琵琶湖学習においては教師自身の「体験」の機会が少なく有効な教材を生み出しにくい問題がある。この問題を解消するため、研修によって教師自身の「体験」を支援する。

## 事業目標4 もっと使いやすい博物館へ（展示係）

## 重点事業4-1 誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長

## ・10年後の目標

誰もがユニバーサルに楽しみ学ぶことができる展示としての評価が定着する。

## ・5年間の事業の考え方

視覚障害者と外国語使用者への対応として音声ガイドを導入したが、その性能上、一部の展示しかカバーできていない。最初の5年間はこの問題に取り組むこととし、可能な限り多くの展示へのアクセシビリティを確保するため、新たなICT技術を用いたガイド手法を導入する。

## 重点事業4-2 「観る」展示から「観る+使う」展示への成長

## ・10年後の目標

展示室と野外の現場をつなぐ仕組みができ、両者を自在に往来し楽しみ学べる博物館となる。

## ・5年間の事業の考え方

展示室から現場の情報にアクセスすることでより展示を楽しむ仕組みを、インターネットの利用により実現する。外部から展示室を利用する方法については重点事業5-1で展開し、6年目以降に両者を活かしたプログラム作りを進める。

## 重点事業4-3 社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長

## ・10年後の目標

来館者が全展示室で、最新の自然・社会・研究状況を反映した情報を得られるようになっている。

## ・5年間の事業の考え方

常設展示の情報の見直しと修正を、リニューアルが終了した時期の早いものから順次進め、5年間で一通りの更新を実施する。

## 事業目標5 より多くの人々が利用する博物館へ（広報営業課・企画調整課）

## 重点事業5-1 ICTを活用したびわ湖の魅力とその入口としての博物館の紹介

## ・10年後の目標

ウェブサイトによる情報提供で国内外の人々がびわ湖や博物館の魅力を知り、来館にもつながる。

## ・5年間の事業の考え方

ウェブサイトを「もう一つの琵琶湖博物館」（バーチャルミュージアム）と位置づけ、サイトだけでも琵琶湖（湖と人間）について学べるように情報を発信する。また、展示室のようすや展示解説も掲載し、疑似的な来館を実現する。最初の5年間は枠組みづくりを中心に進める。

## 重点事業5-2 双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映

- ・10年後の目標  
各種調査・分析・評価結果が、事業に反映される状態となっている。
- ・5年間の事業の考え方  
琵琶湖博物館の社会貢献を測定し、事業に活かせるような仕組みを運営できる組織体制を確立する

## 重点事業5-3 来館しやすい環境の整備（総務課）

- ・10年後の目標  
来館のための利便性が高まり、気軽に訪問できるようになる
- ・5年間の事業の考え方  
予約システムによる来館者の分散は2020・21年度実績より現実的でないと判断。キャッシュレス・チケットレス環境は前倒しの整備となったため、2022年度をもって終了予定。ほかに想定される、多言語対応やユニバーサルデザインの推進は事業目標4にて実施する。公共交通機関の充実については、前中長期計画の取組結果より、期間を区切って結果を達成するのは極めて困難と判断し、継続的に模索するものの、重点事業化はしない。

## 事業目標6 博物館の活動を安定して継続する

## 重点事業6-1 老朽化した施設の改修と災害への備え（総務課）

- ・10年後の目標  
改修によって施設全体、特に資料の保管環境が安定し、マニュアルの再整備により災害に強い運営体制が整っている。
- ・5年間の事業の考え方  
「災害に強い」を重視し、災害に耐えられるような資料の保管環境を実現する改修を優先的に進めるとともに、危機管理体制の見直しを行う。

## 重点事業6-2 安定した活動基盤を確保する仕組みづくり（広報営業課・総務課）

- ・10年後の目標  
支援制度のほか、各種のリソース源が開拓され、多角化によって活動基盤の安定化が進んでいる。
- ・5年間の事業の考え方  
支援制度の整備と安定化をまず実現する